

令和4年度 自己評価（年度末報告）

		学 校 教 育 計 画				香川県立多度津高等学校			
教育方針		(1)自ら学び、考え、行動する意欲や能力を育てる。 (2)夢や理想に向かってチャレンジする精神や態度を育てる。 (3)自然との共生について認識を育てるとともに、伝統文化を理解し尊重する豊かな知性や教養を育てる。		(4)社会の担い手としての、望ましい勤労観・職業観や社会奉仕の精神を育てる。 (5)一人一人の個性を磨き、豊かな道徳性やたくましい精神力・体力を育てる。					
前年度の成果と課題		本年度の重点目標		具体的目標		全体評価			
<ul style="list-style-type: none"> ・全国枠での入学生徒の獲得を積極的に試み、成果を上げた。 ・インターンシップの再開は、令和4年度に持ち越した。 ・学科主任等による中学校訪問の回数を増やし、資料（多高かわら版等）を工夫した。 ・メール配信システムを刷新したことで、きめ細かく情報を発信できるようになった。 ・学校ホームページの工夫や、学校紹介DVDの作成等を継続した。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域や産業界と連携し、専門教育の充実を図る。 ・各学科の特徴を深化させ、魅力ある学校づくりに努める。 ・各学科および学校の取り組みを校外に積極的に発信する。 ・広く社会から求められる人材を育成する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学校の魅力を積極的に発信し、入学希望生徒を昨年以上に獲得する。 ・インターンシップを再開させる。校内への講師等招聘事業を充実させる。 ・学校ホームページやTAKOUかわら版、学校紹介DVD等を更新し、情報発信を充実させる。 ・日常の生徒指導を通して、挨拶や身だしなみの習慣、規範意識を身につけさせる。 		B			
評価項目		本年度の主な活動目標	主な具体的方策	評 価		成果・反省点・次年度の課題等			
				中間	年度末				
1	総務	校外学習や芸術鑑賞など各種行事が円滑に実施できるよう努める。	全体で行う行事では、各科に声を掛け、段取り良く進めていく。新型コロナ対策による実施時期は柔軟に対応していく。	B	B	校外学習の改善を来年の課題とする。施設・設備は年間を通して問題がなかった。			
2	教務	各分掌、学科、学年団等と連携し、学校行事を円滑に行う。	組織全体で関係職員が行事等に積極的に関わることができる環境を整える。コロナ禍での学校行事の実施方法を整える。	B	A	学校行事は、コロナ禍という現状の中で最大限の成果を挙げた。次年度も継続したい。			
3	特別活動	学校行事を通し、帰属意識の向上と、主体的な人間性の育成を目指す。	感染症対策を徹底し、学校行事を充実させ、積極的な参加を促す。部活動加入率9割以上を目指す。	B	B	コロナ対応で体育祭やクラスマッチで新種目が実施できた。IH等のボランティアに参加できた。			
4	生徒指導	懲戒等、指導を受ける生徒数の減少。下校時のルール・マナーの遵守。	発生状況を分析し事前に予防する。学校周辺の立哨指導やホームルーム等での注意喚起。	C	C	家庭の協力を得られないと指導が難しい内容も多いが、事前の予防を徹底したい。			
5	教育相談	教育相談体制の充実。	カウンセリングにより支援の必要な生徒を把握し、個に応じた支援をする。SC、SSWや外部機関との連携をとる。	C	B	こまめに情報交換できた。配慮が必要な生徒のケース会などを増やし支援に活かしたい。			
6	進路指導	生徒の希望に沿い、適性に応じた進路実現100%を目指す。	就職はあらゆる機会を活用して各種情報の公開と相談を行う。進学は情報を得る機会を増やし、受験対策について考えていく。	A	A	3年生の学年団会で進路情報を提供したり、ジョブサポートティーチャによる進路相談を行った。			
7	人権・同和教育	いろいろな人権問題について生徒に正しく認識させ、問題解決のための行動力と実践力を身につけさせる。	差別解消の主体であることを自覚させる。障害者との共同学習および交流学習を通じて人権意識を高める。	B	A	学校生活全体を通じて人権課題が身近にあることに気づき、自分に何ができるかを考えることができた。			
8	保健管理	自己管理や安全に対して意識できる生活習慣を育成する。	体調管理の意識付けをする。新型コロナの情報や啓発を継続する。性教育講演会、AED講習会を実施する。	B	A	感染対策を行い、すべての各種講習会、委員会が開催できた。来年度も積極的に行っていきたい。			
9	いじめ防止対策	いじめの早期発見に努め、深刻な事態の発生を未然に防ぐ。	生徒情報の収集、共有を図る機会を設け、生徒の実態をよりの確に把握する。	B	B	関係教員間で迅速な報告・相談ができています。チームとして対応が浸透している。			
10	学年団	1年団	基本的な生活習慣を確立させ、社会性や公共心を身につけさせ、落ち着いた行動ができるように指導する。	基本的な生活習慣の徹底を図り、落ち着いた学校生活が送れるようにする。個々に応じた適切な指導を行う。	B	B	大半は落ち着いたが、頭髪・服装の乱れや問題行動も見られた。早めに個別指導を行いたい。		
11		2年団	進路意識を高め、早い時期から具体的な目標を持てるように指導する。	あらゆる機会を有効に利用し、進路指導部および各科と連携して、生徒が早期に進路目標を設定できるように保護者に協力を仰ぐ。	B	B	進路意識が高まった。各自の目標実現に向け各科と協力しながら指導したい。		
12		3年団	生徒の希望する進路目標達成のための適切な学習指導・生活指導にあたる。	個人面接を頻繁に行い、生徒の進路希望と適性を的確に把握したうえで、必要な学習指導・生活指導にあたる。	B	B	ほぼ全員の進路が決まった。内定後の気のゆるみがあったが、服装・出席状況は良かった。		
13	教科指導	普通科	国語	文章の内容を正確に読み取り、主題や要旨を的確にまとめる。	国語辞典の利用や書取テストの練習などを通して漢字や語句の力をつけさせる。	C	B	辞書を使わせ、語彙力の養成をはかった。興味を持てる自主的に学べる教材を提供したい。	
14			地・公	高校生・社会人に必要とされる基礎知識の定着を図り、就職や進学に役立つようにする。	興味・関心をひき出す話題や教材の提示。板書事項の精選。ノートの整理・記録やワークシートへの用語記入の徹底。	A	A	視聴覚教材を使い興味を持たせた。生徒の課題の提出状況はおおむね良かった。	
15			数学	基礎学力の定着。	分かりやすい授業の工夫。課題提出の徹底。追試や補習授業など特別指導及び個別指導。	B	B	個別指導が必要な生徒が増え対応が難しい。基礎学力の定着に向けて指導を継続したい。	
16			理科	自然科学の原理・法則に基づく思考力を習得させ、進路に必要な学力や自然観を育てる。	専門の学習内容に関連付けて授業を展開し、科学的な側面から思考力や基礎学力の定着を図る。	C	B	効果的に演示実験等を行った。実験から分かることを考察させるような工夫をしたい。	
17			保体	集団と個人の安全面について理解させ、体力、運動能力を高める様々な活動に取り組めるようにする。	積極的に体力、運動能力の向上を目指す。コロナ感染予防にも努め、個人の予防対策も習慣づける。	C	B	感染対策を注意し時期に合った運動を選択した。生徒の意識も高まり十分な活動が出来た。	
18			芸術	授業でICTを活用し個々の制作意欲を高める。基本的な知識・技能の確実な習得を目指す。	効率的かつ視覚的に知識・技能を理解させる。個別指導を充実させ個々に応じた指導の時間を多くとる。	C	B	視聴覚教材による効率的な学習ができた。通信機器で生徒間コミュニケーションに取り組みせたい。	
19			英語	興味・関心を高め、異文化を理解する態度と積極的にコミュニケーションをとる態度を身につける。	授業以外でも、積極的にALTとのコミュニケーションをとる。提出物を必ず提出させる。	B	B	課題等の提出は良かった。興味関心は物足りない面はあるが授業態度は良好である。	
20			家庭	家庭生活に必要な基礎基本の定着を図る。	個々に活動する実習を積極的に取り入れ、技術と自ら判断・対処ができる知識の定着を図る。	B	B	必要な知識・技術を伝えられた。自ら判断・対処できる力を身に付ける授業づくりに努めたい。	
21			機械	志願者数の増加、造船教育の充実。	体験入学、文化祭等において生徒作品の展示や実習の見学・体験を積極的に機械科の魅力を広める。	B	B	見学会では高評価を得たが志願者増には至っていない。中学校で出前授業等を行う等魅力を発信したい。	
22			電気	電気の専門分野に関する基礎知識や技能を身につけさせ、将来の電気技術者を育てる。	I C T 機材を活用した授業実践。専門に関する検定や資格試験の受験指導。	B	B	ICT機材の活用を広めたい。資格試験には積極的に取り組めたが合格率が少し悪かった。	
23	土木	基礎的な知識・技術を定着させ、土木技術者に求められる資質や能力、態度を養う。	座学と実習を関連付けて、実践的・体験的な活動から学習の動機づけを図る。	B	B	現場見学が実施できた。全学年を通じて、個々の能力以上の努力が見られている。			
24	建築	建築に触れる機会を増やし、将来に向けて目標意識の向上を目指す。	I C T を使った授業で視覚的な情報教育を増やす。現場見学会や講習会を実施する。	B	A	I C T の活用が増え生徒の理解度も上がった。建築見学会もいくつか実施できた。			
25	技術	基本的な生活・学習習慣を確立する。	基本的なルールを学校生活を通して学び、乗船実習や進路先に適応できる社会一般常識、協調性を身につけさせる。	C	B	各学年とも成果が見られた。次年度も海洋関連産業で活躍できる生徒の育成を目指したい。			
26	生産	進路指導の充実と海洋生産科の学科としての魅力を更にアップさせる。	学習指導要領の改訂や変化する社会情勢に柔軟に対応すべく、学科の設置目標を明確にし、教育課程、学習内容を積極的に見直ししていく。	C	C	地域や企業からの相談は増加しているが、いかに人と時間を確保するかが大きな課題である。			

※年度末評価（最終目標達成見込み）：A 80%以上（順調に実施でき目標を達成できた） B：79～60%（やや遅れ気味であったが目標は達成できた） C：59～40%（遅れ気味で目標達成が難しい） D：39%未満（年度内の目標達成が困難である）